

1996年天文教育普及研究会年会の報告 (第10回天文教育研究会)

7月31日から8月3日まで、新潟県の風光明媚な妙高山麓で標記の大会が開催された。

この7月に中央教育審議会の答申が出され、学校週5日制の完全実施が正式に打ち出された。その答申の具体化のために教育課程審議会が8月に発足する。このような状況での本会の第10回大会を節目として、いろいろな課題に対する本会の決意と関係各当局への要望を以下の大会宣言という形で公表することとした。

1997年の年会は、8月4日(月)～7日(木)に相模セミナーハウスで開催する予定である。

なお、1996年年会集録(送料込み2000円・研究会会員は無料)、1995年集録(同1500円)、1994年集録(同1000円)、1993年集録(同500円)、冊子「天文教具」(同500円)を希望の方は、代金相当の切手を下記に送付ください。

天文教育普及研究会会長 水野孝雄
〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学地学教室内

TEL (0423) 25-2111 FAX (0423) 25-4219
e-mail:mizuno@yamabuki.u-gakugei.ac.jp

天文教育普及研究会 1996年大会における大会宣言 (第10回天文教育研究会)

本会は、全国の小学校・中学校・高等学校・大学・研究所等の教職員、社会教育施設等公的教育機関の職員および公的機関に属さない天文普及者などで構成されています。したがって、学校教育・社会教育等についても個々の問題を扱うだけでなく、相互に関連した課題をも検討できるという特長もっています。

現在の教育は解決すべき種々の問題を抱えています。また、21世紀に向けて検討すべき多くの課題があります。折しも、中央教育審議会が中間答申を提出し、学校週5日制の完全実施等の方針を打ち出しました。学校週5日制が完全実施されるならば、土曜日・日曜日における地域社会の果たすべき役割が一層増すでしょうが、学校教育の重要性が減少するわけではありません。むしろ授業日数が減るため、毎日の充実した教育が要求されます。また、社会教育施設に足を運ぶ児童・生徒は全員ではなく、全地域に十分な施設があるとも言えず、社会教育施設が学校の肩代わりをできるわけではありません。しかし、そこに足を運べば学校教育で芽生えた興味を伸ばし、別な分野への関心を抱く動機づけを与えるという発展的な役割を担えるでしょう。いずれにせよ、学校教育と地域・社会教育との連携が今より一層必要になることは確かで、本会が果たすべき役割は多くあると考えられます。

ここに本会の第10回大会を節目として、下記の課題解決に向けて全会員が一致協力して努力することを宣言するとともに、関係当局に十分な検討を要望していきます。

記

1. 社会教育施設の充実

設備の充実はもちろん重要ですが、施設に二度・三度と行きたくようになるようにするために、一層きめ細かな対応が可能にする必要があります。そのためには、専門知識を含めて豊かな資質・能力を備えた職員が十分に配置されるように努めます。

2. 小学校における天文教材の重要性

子供たちに科学的に真剣に考えるという姿勢が希薄化しています。それを防ぐため、低学年から考える楽しさを体験できるように、自然を題材とした授業の推進に努めます。また、理科の内容として自分たちの住む地球を理解するには、そのまわりの理解が必要です。そのために空間的にも時間的にも大きなスケールで考え、大きな視野でものごとをみる能力を育成するのに適した天文分野の教育を進めます。

3. 中学校理科に宇宙全体までを含めること

身近な現象や日常生活と関わりの深い題材を扱うことは、自然に対する興味・関心をもたせるために有用ですが、同時に広い視野を育成するのに適した題材の取扱いも重要です。そのために、天文分野では太陽系にとどまらず、宇宙全体までを含めた内容をより精選した形で学ばせられるように努めます。

4. 高校理科の基礎的・基本的な内容の必修化

地球人としてグローバルな視野を育成するために、天文分野を含む理科の全ての領域にわたる基礎的・基本的な内容を必修として学ばせられるように努めます。

5. 理科を十分に理解した教員の配置と研修の充実

理科の授業を一層わかりやすく、科学的に考える楽しさを教えられるように、小学校では理科を十分に理解した教員の各学校への配置と、小学校・中学校・高等学校の教員研修の充実を要望します。